



上島町の皆さん、こんにちは！生名・弓削地区担当のリム・シューエイです。今回広報で書くのは最後の一回になりましたので、今までの経験をまとめて書きたいと思います。

まず、皆さんに質問があります。皆さんにとって、上島町とは何ですか？

私の印象は上島町が巨鯨の白骨のような姿をする橋があり、煌めいている海と爽やかな緑を繋げている美しい諸島です。それぞれの島には、心が温かくて、表情も優しく、知らない人にも声をかけてあいさつをする人々がいます。毎朝小鳥のさえずりで目が覚めます。学校に向かって行く時、ベタン、ベタンと渚を洗う静かな波の音が聞こえています。生名港でユゲシマの待ち時間に、朝日が石灰山の端に顔を覗かせています。徐々に登っている朝日が照らす水面も、銀を流したように光っています。そういう光景を見ると、すぐデジタルカメラを出してその瞬間を写真に記録しています。回りの子供たちによく聞かれて、「なぜいつも撮るの？毎日一緒じゃん！」。しかし、私は毎回の光景の美しさが違うと思います。

二年前来た時から、暫くシンガポールと同じような暑さをしていと思っていたが、徐々に涼しくなって、経験したことがない気温になりました。その時、赤や、黄色、茶色、緑を混ぜている落ち葉は秋風で踊っている姿が目に入りました。それは私の初めての秋です。そして気温がどんどん下がって、寒さに慣れないので体を崩して、二か月に一回ぐらい風邪を引いちゃいました。「もうだめだ」と思った時、薄いピンクや白いお花が目に入りました。桜を見るのは初めてです。四月中旬に友達が来て、積善山で花見をしました。そこから見た風景は桜が咲き乱れ、雲の林のように見える中に、松の緑が混じっているのが、とても美しかったです。

山々が徐々に、柔らかな新緑に染まって、半袖と半ズボンの時期が戻ってきました。同僚の友達に誘われ、楽しいバーベキューをやりました。学校のキャンプにも参加し、初めて海で泳ぎました。ふるさと夜市で、甚平を着て、お化け屋敷に入ったり、近い距離で花火を見たり、初めての経験を沢山しました。教え子とも一緒に楽しい時間をいっぱい過ごしました。それは、たくさん行ったサイクリングや、ハイキング、水泳で、自然を満喫した数か月です。

九月に入ると、傘を差してもほとんど意味がない暴風雨が来ました。いつもより強い風と雨のため、数週間続きの警報が出て、次々に学校が休みになりました。暴風雨を経験したことがありますが、子供を心配し学校が休みになるのは初めてでした。台風は無事で、「エーヤーヨーイッセ！」の叫び声が聞こえるようになりました。お互いに支え合って、ダンジリを担いで、騒がしい一ヶ月でした。生名や、佐島、久司浦、沢津、上弓削、下弓削、引野と明神の秋祭りに全部参加し、地域の皆さんに大変お世話になりました。

二回目の冬はほとんど慣れましたが、年末に一回自転車で転んで頭を打って、二ヶ月ぐらい体調を崩してしまいました。大変な時を超えてから、なんとも珍しい真っ白な上島町の光景を見ました。三月中旬には、いきなり深い所から湧くような地響きが、寝ている背中に伝わってきました。初めての地震なので、惘然とし

平成25年度弓削中学校卒業生と写真を撮りました



生名港からキラキラな海の風景です

ました。そして、また枝々に桜の花が白い渦のように咲き溢れています。

今までの二年間で、たくさんのことを経験し、たくさんの思い出ができました。日本の中の十一県を旅行し、上島町内の活動や行事にも参加しました。自分の能力も伸びたと思います。絵を描くことが元々好きですが、その間に上手になりました。陶芸やピアノも学び始めました。最も大きな行事はたぶんうちが生名深浦への引越です。その上に、いつも教え子とたくさん笑ったり、泣いたり、しゃべったり、遊んだり、とても楽しい時間を過ごしました。人生で一番幸せな二年間だと思います。それぞれの学校で、卒業式や、入学式、離任式など二回ずつ見ました。たくさんの教え子や先生方を見送ったり、新しい方を歓迎したり、案内したり、上島町が私のふるさとのように感じています。

嵐が紅白歌合戦で歌った曲「ふるさと」の歌詞が思い浮かんでいます。

巡り合いたい人がそこにいる やさしさ広げて待っている
山も風も海の色も 一番素直になれる場所
忘れられない歌がそこにある 手と手つないで口ずさむ
山も風も海の色も ここはふるさと
君のふるさと 僕のふるさと

「ふるとはは始まりの場所、それぞれの原点。ふるさとへの思いから、その人の人生観が見えてきます。ふるとはいつも心の中にある。家族そのもの、ホッとさせてくれる人がいればそこがふるさとなる。」

去年の紅白歌合戦で、嵐のメンバがそう言いました。

上島町は、私と日本の繋がりの原点で、お気に入りになった場所です。

上島町のおかげで、私が変わりました。明るく、素直に、元気になりました。

私にとって、上島町はふるさとです。

いつでも愛され、頼られ、帰って来られるふるさとです。

皆さん、今まで大変お世話になり、本当に感謝しています。

残り数か月も、頑張りましますので、よろしくお願いします！



きれいな日の出です
(2013年12月10日)

こんにちは 町長です

3月初旬、京都東寺に訪問させていただきました。町民の皆様にもご案内のとおり、上島町弓削島は今から七百五十年前の鎌倉時代、東寺の荘園であり、主に塩を納めていました。

東寺砂原長者にもお話をする時間を取っていただき、東寺と弓削島との繋がりを、京都の歴史について詳しくお聞きすることができました。今回は東寺のみならず、弓削島から船で運んだ荷物を陸揚げしていた、淀津も訪れ、その地に立つと先人の息遣いさえ聞こえるような気がしました。陸路は車力という運搬業者によって京都まで届けられたようで、機会があればその足跡も辿りたいと考えています。

また、それらの事を書き遺した国宝「東寺百合文書」の現物を見る機会にも恵まれました。この百合文書は現在、京都府立総合資料館に保管されており、岡本学芸員さんに直接の説明と、保管場所の案内をしていただきました。私は「東寺百合文書」とは一つだけの箱であると勝手に思い込んでいましたが、文字通り百個の箱に保存されており、しかもその箱自体も国宝なんです。拝見させていただいた古文書は鮮明で、所々に引かれた朱色の線は当時のままに残り、緊張の中にも感動を覚えました。

この国宝は、修学旅行等の際にも事前了解があれば、見せていただけるそうです。



上島町長 上村俊之